



平成28年1月28日
第六管区海上保安本部

問い合わせ先
海洋情報部海洋調査課長 古河 泰典
082-251-5111 (内線 2530)

第7回広島湾水質一斉調査の結果について ～関係機関が連携した水質調査の結果概要～

第六管区海上保安本部は、「広島湾再生プロジェクト^{*1}」に参画しています。平成27年9月に関係機関と連携して実施した広島湾水質一斉調査の結果がまとまりました。

第六管区海上保安本部は、「広島湾再生プロジェクト」に参画しています。広島湾のモニタリングを行うため、中国地方整備局や広島県などの関係機関と連携して、平成27年9月2日(水)～16日(水)、25日(金)に水質の一斉調査を実施しました。

主な調査項目は、「底層での海水中の酸素量(DO:溶存酸素)^{*2}」と「海水の透明度」です。

広島湾では、北部海域(沿岸部)の海底付近を中心に海水中に溶けている酸素が少ない水の塊(貧酸素水塊)が発生していることから、海底面から0.5mから2m付近の底層で海水中に溶けている酸素の量(底層DO)を測定しました。一般的に同一条件であればこの数値が高いほど水質が良いこととなります。

また、水の清濁の指標として理解し易い海水の透明度については、直径30cmの白色円板を沈め海面下、何メートルまで視認できるか測定しました。

結果

1 底層DO

調査海域全体では北部海域から南部海域にいくにつれ底層DOが高くなる傾向となりました。

広島湾北部海域では、太田川河口部付近を除き、調査海域全体と比較すると底層DOが低くなっており、太田川河口沖及び海田湾の一部の観測点で目標値の2mg/Lを下回っていました。広島湾湾口付近では6mg/L以上と目標値を大きく上回っていました。

2 透明度

調査海域全体では南部海域にいくにつれ透明度が高くなる傾向となりました。

広島湾北部海域である廿日市から五日市沖では透明度が2m以下と低くな

っていましたが、目標値の1mを下回る海域はありませんでした。

広島湾再生プロジェクトでは、「底層（DO）」と「海水の透明度」の2つに定量的目標^{*3}を設定し、目標達成状況を評価するための共通調査項目としています。

調査結果の詳細については広島湾再生プロジェクトのホームページに掲載されます。

PCサイトURL <http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/hiroshimawan/index.html>

* 1 広島湾再生プロジェクト

全国海の再生プロジェクトの一環として、広島湾の良好な環境の再生を目指して実施する取り組みの事です。本プロジェクトには、中国地方整備局、第六管区海上保安本部、広島県、山口県、広島市、呉市が参加しています。

* 2 溶存酸素

溶存酸素（DO）の最低濃度が2mg/L以上であれば、底生生物が生息可能となります。

* 3 定量的目標

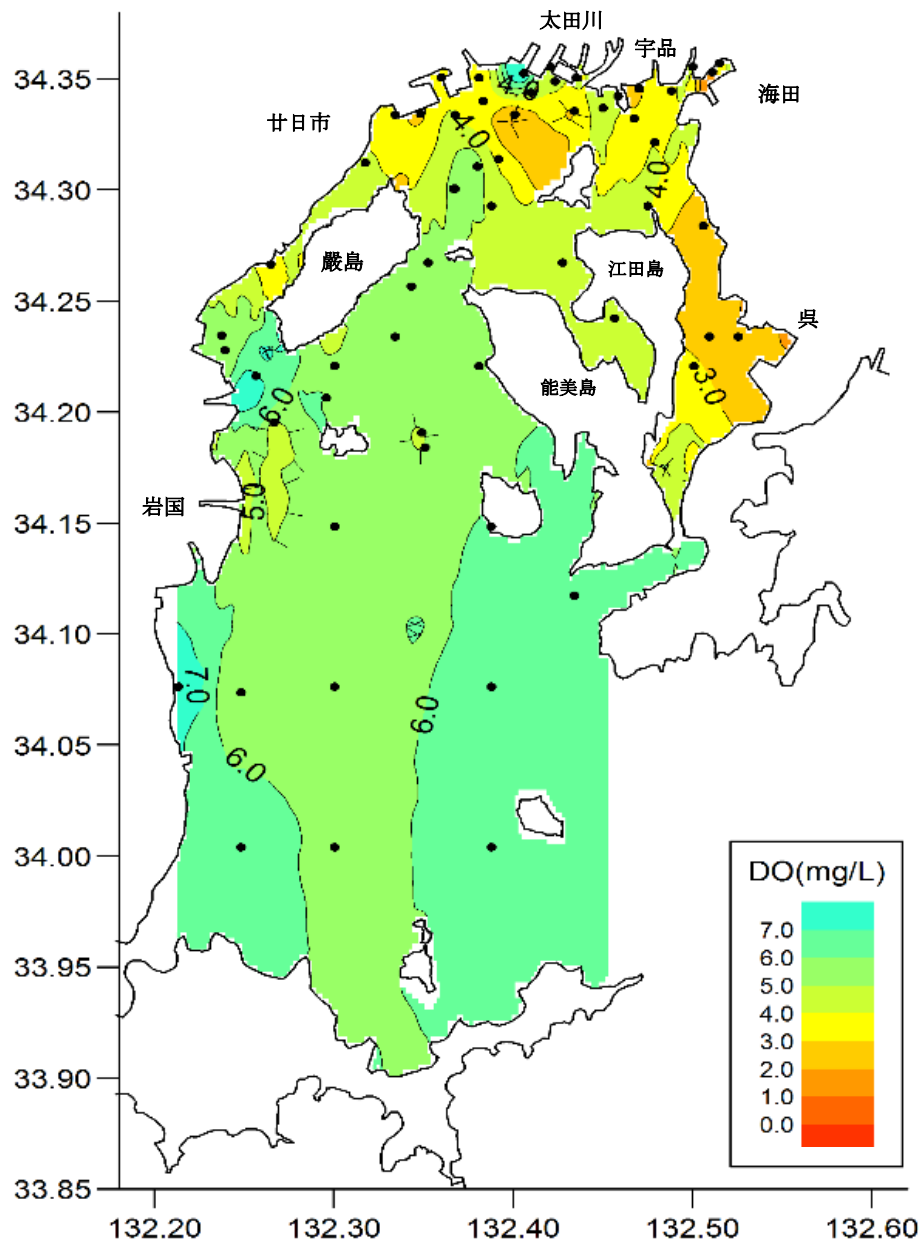
広島湾再生プロジェクトでは、目標達成状況を評価するための目標値を、底層DOは2mg/L以上、透明度は1m以上（夏季）と設定しています。

底層DO

○広島湾では、主に海底付近で発生することから、海底面から0.5mから2m付近（底層）における海水中に溶けている酸素の量（DO：溶存酸素）を調査しています。DOは数値が大きいほど、海水中に溶けている酸素の量が多いことを示しています。

○広島湾北部海域では、河川水が流入する太田川河口部付近を除き全体的に底層DOが低くなっており、太田川沖及び海田湾では、広島湾再生プロジェクトの定量的目標である底層DO=2mg/Lを下回る観測点も一部見られました。

○調査海域全体では、北部海域から南部海域にいくにつれて底層DOが高くなる傾向にあり、広島湾湾口付近では6mg/Lを上回る高い値となりました。



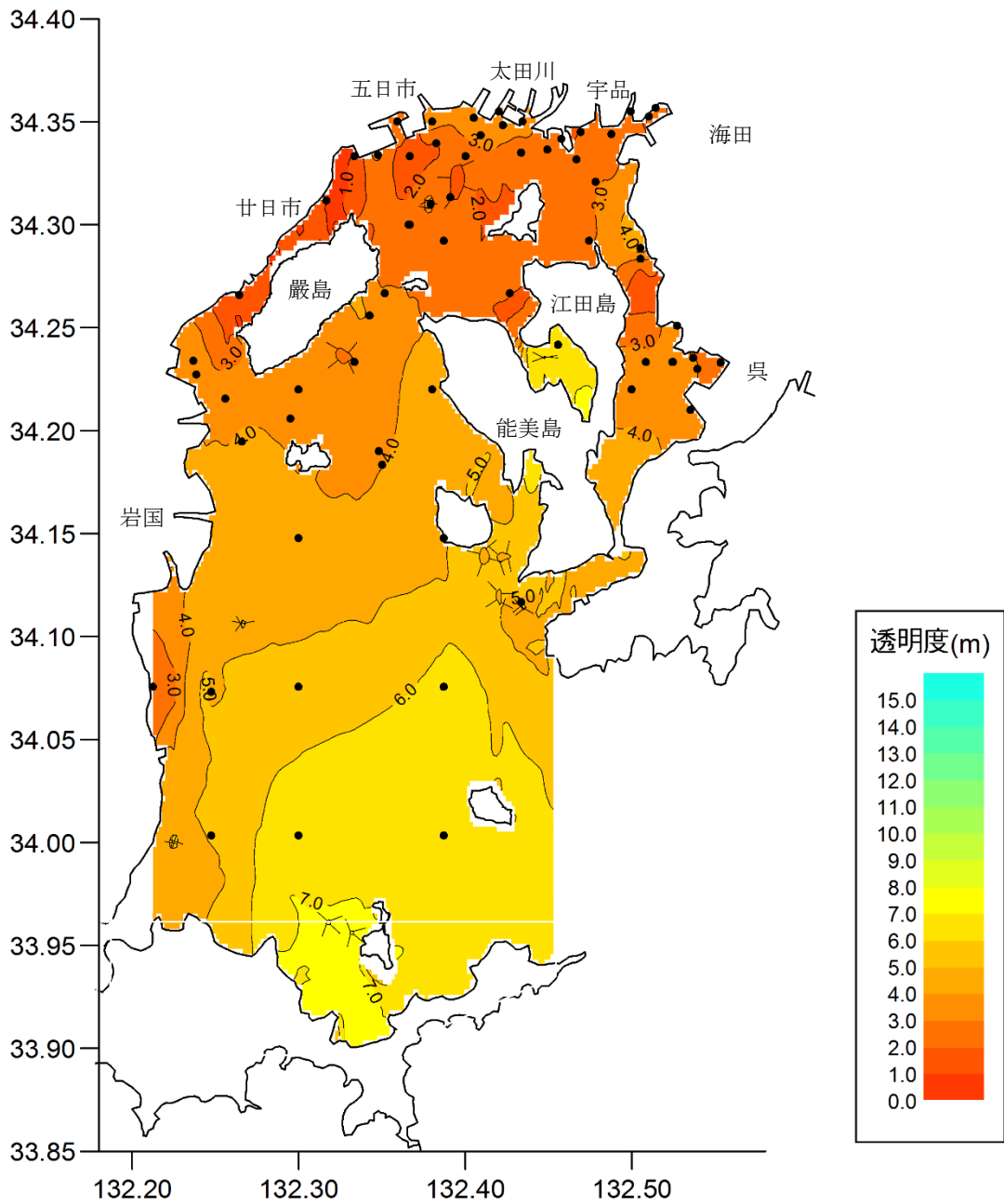
底層 DO 水平分布図

透明度

○透明度とは、直径30cmの白色の円板を沈め海面上から視認できる深さで表す水の清濁の指標の一つで、数値が大きいほど澄んでいることを示しています。広島湾再生プロジェクトでは、目標達成状況を評価するための定量的目標値を1m以上（夏季）と設定しています。

○調査海域全体では、南部海域の透明度が高い傾向となっています。

○広島湾北部海域である廿日市～五日市沖では、広島湾再生プロジェクトの定量的目標を下回る値ではありませんでしたが、透明度が2m以下と低い値となりました。



透明度水平分布図